古川田溝翁が各学校へ寄贈した貝類標本について

斉　藤　岩　雄

県下のどこの学校にも理科室や資料室があり，その部屋（教室）の一隅にホルマリン液につけられた魚類や小動物の剝製，岩石鉱物などの理科標本を並べた棚が置かれているものである。そして，学校が増改築されたり，何かの理由で部屋（教室）の模様がえがなされたりするとき以外は，めったに，その標本棚も動かされることはない。

何かの理由で理科室や資料室が移転されるとき，今まで埃にまみれていた標本棚を整理してみると，実にさまざまな品物が，しかも，その理由も由来も不明のままに出てくることがある。県下の各学校のそういう品々の中に，必ず一つの箱に収められた貝類標本もあるはずである。といっても，今もそのようなものが残されているかどうかはわからない。

話は今から３５年も昔にさかのぼるのであるが，昭和１２年ごろから１５年ごろにかけて，本県の貝類蒐集家の草分けである鯖江市の医師古川田溝先生が，そのころ県下の各小学校へ貝の標本１００種以上を一組として寄贈され，貝類に関する認識の普及発展向上に努力されたことがあった。そのようなころの標本であるから，よほどの学校でない限りきちんと保管されているはずもない。もし，残っているとしても２０～３０点ほどが埃まみれになって残っている程度で，その貝殻も珍しい貝や美しい貝などは，おそらく，終戦直後の混乱の時か，６，３制の実施，あるいは，校舎の新改築等の時などにどこかへ持ち去られたり，処分されたりしたのではなかろうか。そして，現在ではきわめて資料保管のすぐれた学校でない限り，この貝類標本が残されていることはないと思うのである。幸い，残されていても，自分の学校に貝類標本がなぜこんなにあるのか，その理由も忘れ去られているのではなかろうか。３５年も前の古い話であるから，古川翁の貴い気持も貝類標本同様に忘れてしまっていても，しかたがないとは考えられるが……。

古川田溝翁の標本１００余種の寄贈をうけた学校は，当時県下小中学校３００余校全部の学校であった筈で，その標本数は膨大なものであったといわねばならない。

ちょうど，私はそのころ海岸の学校に勤務していて貝を集めていた関係上，当の古川先生から貝をいくらでも集めて送ってくれと頼まれた。そこで，私は今のようにダンボールのような便利な箱もなかった頃で，昔の石炭箱やうどん箱に貝を詰めて，せっせと古川先生のもとにお送りしたものである。

こうして集められた貝が古川先生のところで整理され，名前や産地などもつけられて各学校への寄贈標本の一部となった。また，県外産の貝，特に沖縄や奄美の貝，紀伊や高知の貝については，先生が大金を支払われて大量に購入された。こうして，県内県外の貝をあわせて１００種余を一組とした貝類標本をつくられて各学校へ寄贈されたのである。さらに，これにとどまらず，その後も窪田彦左エ門先生を高知や沖縄へ貝類採集のために派遣されて集められた貝も，後日追加標本と

して各学校へ寄贈されたようである。

私は海岸の学校にいて直接貝を採集していたため，どんな貝が各学校へ寄贈されていたのかは具体的には知る由もなかった。後日，海岸の学校から転任した私は，珍稀な貝も含められた立派な貝類標本を各学校において目にすることができた。そして，それらの貝類標本の中には私の採集した貝もあったりして，なつかしい気がしたものである。

あれからもう３５年の歳月がたっている。今は古川田溝先生も，そのころ標本整理の助手として活躍された窪田彦左エ門先生も他界され，そのころの苦労や様子などの全貌を知ることができなくなってしまった。

昭和４６年５月のことである。偶然今立町南中山小学校において，昔のままに近い姿でよく保管されている古川田溝先生寄贈の貝類標本に出合った。そして，当時の山品校長先生の御好意によってその貝類標本を整理する機会を持つことができた。この時もう貝殻がわれているものもあったが，原形のわかるものについては私の標本を加えることにした。３０種ばかり追加することで，古川田溝翁寄贈の貝類標本の全貌に近いものとなった。全部で１５０種くらいになった。

このことから推察してみると，おそらく他の学校においても，当時これくらいの貝類標本が各学校に寄贈され保管されていたのではなかろうか。

ここに南中山小学校の貝類標本を紹介することによって，古川翁の寄贈した貝類標本がどんなものであったかの一端を伺うことにしよう。

古川田溝翁寄贈貝類標本

ー南中山小学校貝類標本ー

注 1. 和名及科名は，福井県郷土博物館発行の貝類標本目録による。

2. 産地を記入してないものは，県内産の貝である。

3. 分類は巻貝，二枚貝，角貝，淡水貝，陸産貝とわけて書いた。

巻貝の部

みみがい科

クロアワビ，メカイアワビ，トコブシ

つたのは科

ツタノハ，ヨメガカサ，ベツコウガサ

マツバガイ（高知）

ゆきのかさ科

ウノアシ，カモガイ，キクコザラ（高知）

にしきうず科

アシヤガイ，イワカワチグサ，イシダタミ

クビレクロヅケガイ，クロヅケガイ

ヘソアキクボガイ，クボガイ，コシタカガンガラ，オオコシタカガンガラ，バテイラ（千葉），キサゴ

りゅうてん科

タツマキサザエ,（沖縄），コシタカサザエ（奄美），サザエ，スガイ，ウラウズガイ，リンボウガイ（高知）

あまおぶね科

イシマキ

たまきび科
タマキビ，アラレタマキビ
むかでがい科
オオヘビガイ
うみにな科
ウミニナ（沖縄）
おにのつのがい科
コオロギ
しろねずみがい科
カワチドリ，キクスズメ
かりばがさ科
クルスガイ
すいしょうがい科
シドロ，スイジガイ（沖縄）
たまがい科
エゾタマガイ，ツメタガイ，ウチヤマタ
マツバキ
ざくろがい科
ザクロガイ
たからがい科
チヤイロキヌタ，メダカラガイ，ハナビ
ラダカラ（奄美），ヤクジマダカラ（沖
縄），ホシダカラ（沖縄）
とうかむり科
トウカムリ（沖縄），ウラシマ
ふじつがい科
アヤボラ，マツカワガイ（和歌山），カ
コボラ,（三重），ボウシュウボラ（千葉）
おきにし科
ヤツシロガイ
あくきがい科
アクキガイ（和歌山），オニサザエボラ
（三重），イセヨウラク，アカニシ，レイ
シガイ，イボニシ，テツレイシ（奄美）
ふところがい科
マツムシ，ムギガイ，フトコロガイ
ボサツガイ
えぞばい科
エゾボラモドキ，ミクリガイ，バイ，
クビレバイ，エッチュウバイ，カガバイ，
てんぐにし科
テングニシ，クロスゲムシロ，キヌボラ，
ムシロガイ
いとまきぼら科
ナガニシ
まくらがい科
ムシボタル，ジュドウマクラ（沖縄），
アワヂオトメ
しょくこうら科
ショクコウラ（沖縄）
くだまきがい科
ヒダリマキイグチ
たけのこがい科
シチクガイ（奄美），ニクタケ（沖縄）
とうがたがい科
チヨウジガイ

二枚貝の部
くるみがい科
オオキララガイ
ふねがい科
カリガネエガイ，ミミエガイ，アカガイ
（東京），サルボウ（東京）
うぐいすがい科
アコヤガイ（三重）
つきひがい科
ツキヒガイ（奄美）
いたやがい科
ナデシコガイ（高知），ニシキガイ（奄

美），キンチャクガイ，イタヤガイ，ホタテガイ（北海道）

みのがい科

ユキミノ

いたぼがき科

マガキ（高知），ナミマガシワ

いがい科

ホトトギス，イガイ，ムラサキインコ，イシマテ

きくざるがい科

キクザル，サルノカシラ

まるすだれがい科

マツヤマワスレ，チョウセンハマグリ（伊勢），ヒメカガミガイ，オキシジミ，オニアサリ，コタマガイ，オオスダレガイ，アサリ，ヒメアサリ

ふたばしらがい科

ヤエウメ，ウメノハナガイ

ふじのはながい科

フヂノハナガイ（和歌山），ナミノコ

あさじがい科

サギガイ（石川），モモノハナガイ（石川），サクラガイ（石川），ベニガイ

ばかがい科

バカガイ

ちどりますおがい科

クチバガイ

とまやがい科

トマヤガイ

角貝の部

ヤカドツノガイ（高知）

淡水貝の部

とうがたかわにな科

カワニナ

たにし科

オオタニシ，マルタニシ，ナガタニシ（琵琶湖）

ものあらがい科

ヒメモノアラガイ

いしがい科

イシガイ，マツカサガイ，タガイ，ヌマガイ，イケチョウガイ（琵琶湖）

しじみがい科

ヤマトシジミ，ニホンシジミ，マンジミ

陸産貝の部

かわざんしょうがい科

ウスイロヘソカドガイ

ぬまつぼ科

エチゼンイツマデガイ

やまたにし科

ヤマタニシ，ヤマグルマ（高知），アズキガイ（高知）

きせるがい科

ナミギセル，ナミコギセル，オオギセル

なんばんまいまい科

コシタカコベソマイマイ，ヤマタカマイマイ

おなじまいまい科

オオケマイマイ，ウスカワマイマイ，ツルガマイマイ，コガネマイマイ，オカノニシキマイマイ，クチベニマイマイ